

平成23年度に建設工事で発生した事件事例（立木処理による事故）

事故概要:

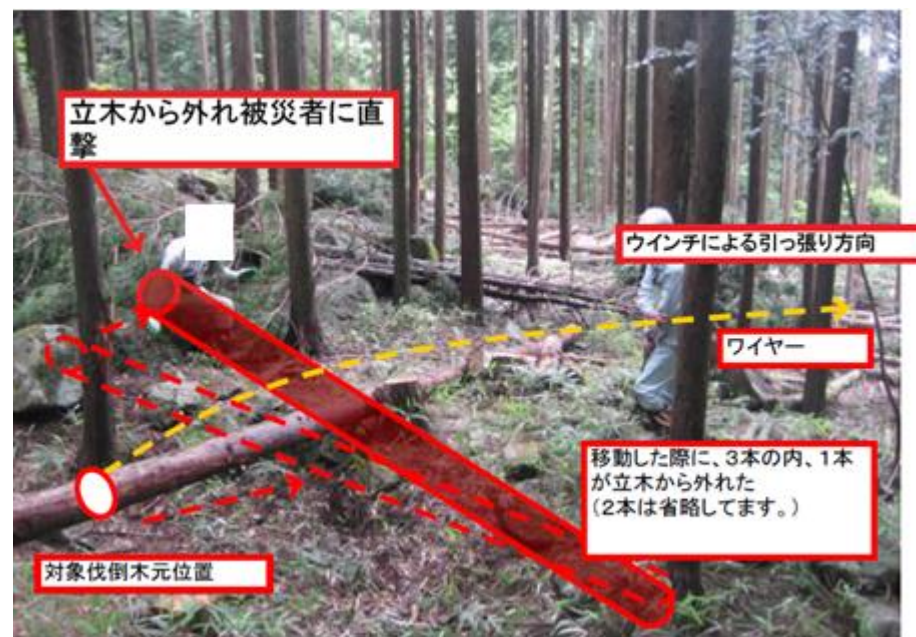
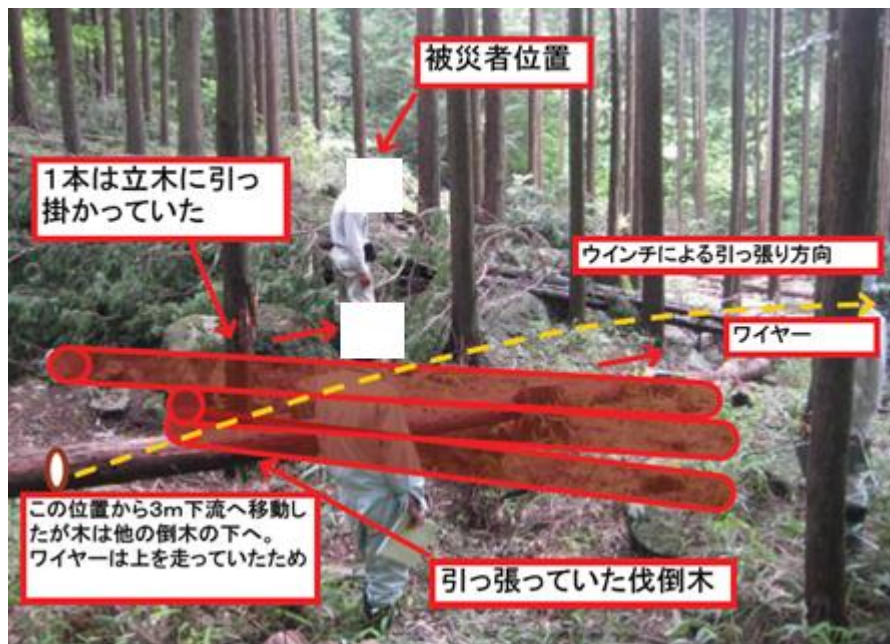
伐採木をグラップルのウインチを使い作業道に引きずり出そうとしたところ、別の伐採木に引っ掛かり、木が跳ねて、近くにいた作業員の膝に当たり負傷した。

事故原因:

- ・被災者が集積状況を十分注意していなかった
- ・異常発生時に対する対策がとられていなかった

改善対策:

- ・安全教育の徹底
- ・監視員を配置



分類: 伐採、集積

被害状況: 1週間の加療(右膝打撲)

平成24年度に建設工事で発生した事故事例（転倒による事故）

事故概要：

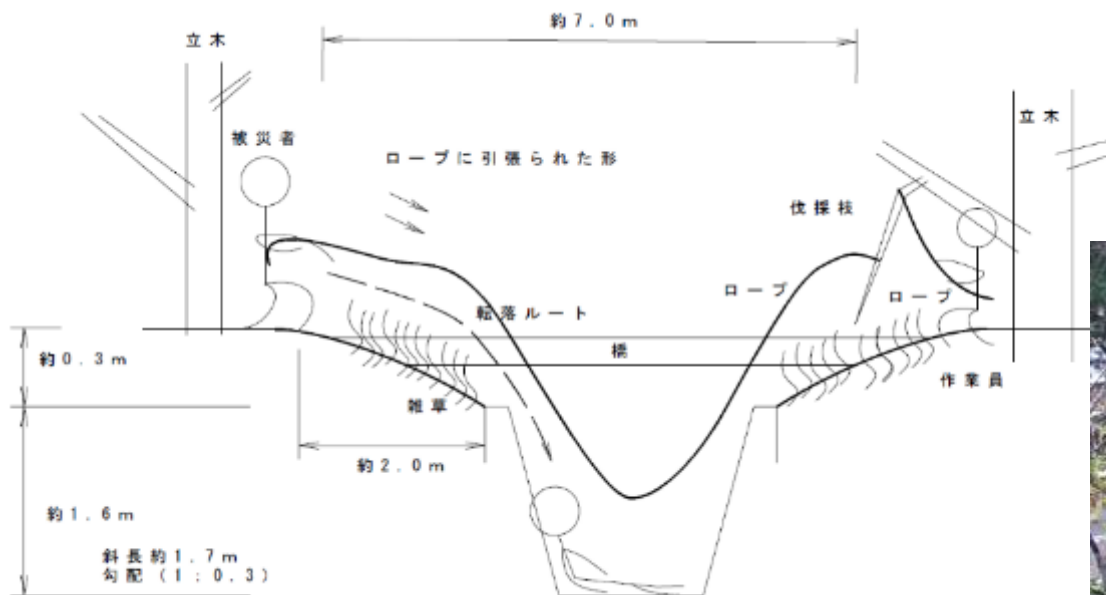
伐採する枝の道路上への落下を防ぐため、作業員が伐採する枝にロープを結束し固定していた。伐採後、結束していたロープを片付けようとした時、背中から滑る形で水路に転落した。

事故原因：

作業員自身が自身の体調不良を軽視していた

改善対策：

前日、午前、午後に体調チェックシートを活用し健康状態を把握する



分類：伐採、集積

被害状況：全治1か月（第二腰椎圧迫骨折等）

平成24年度に建設工事で発生した事件事例（立木処理による事故）

事故概要:

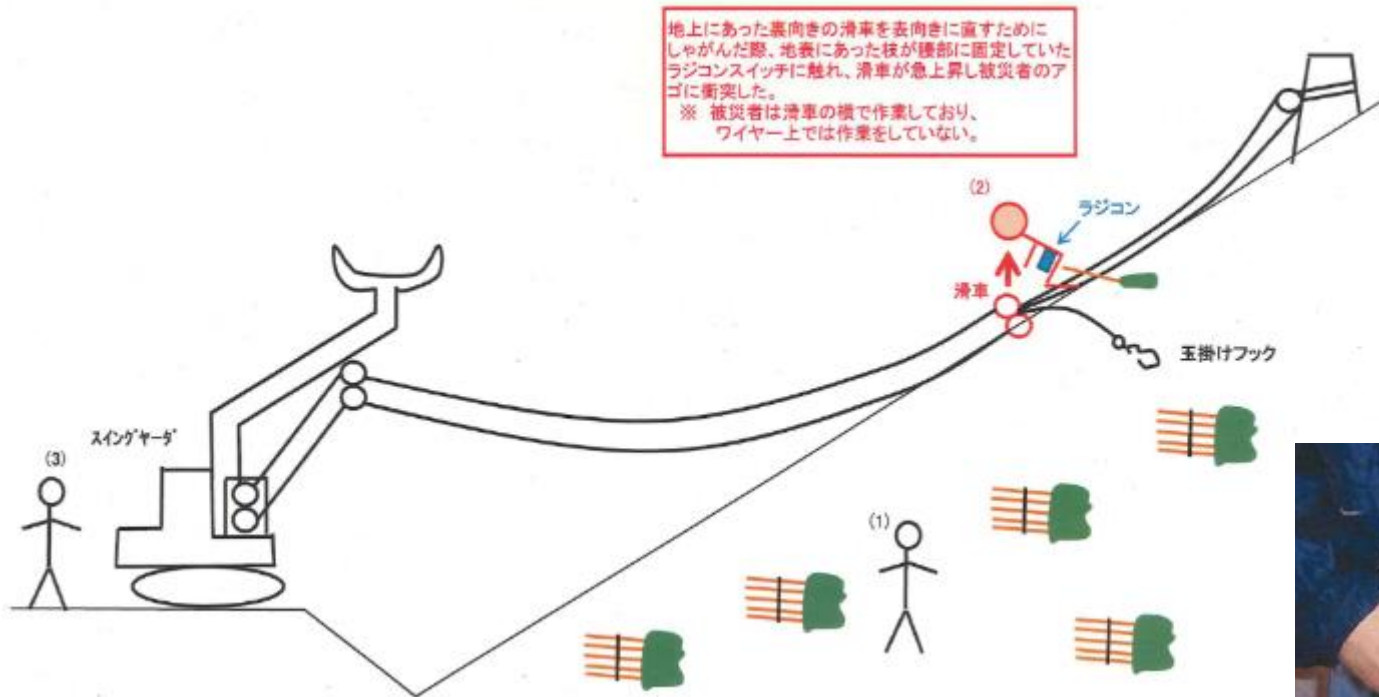
スイングヤーダで支障木の枝を搬出する作業を行っていたところ、地上にあった滑車が裏向きであったため、表向きに直そうとしゃがんだ際に、枝がラジコンのコントローラーに触れ、滑車が稼働し跳ね上がり作業員の顎に当たった。

事故原因:

操作ラジコンのスイッチを入れたままにしていた

改善対策:

稼働時以外はスイッチを切るよう徹底する



分類: 伐採、集積

被害状況: 2週間の治療(歯牙打撲等)

平成24年度に建設工事で発生した事件事例（立木処理による事故）

事故概要:

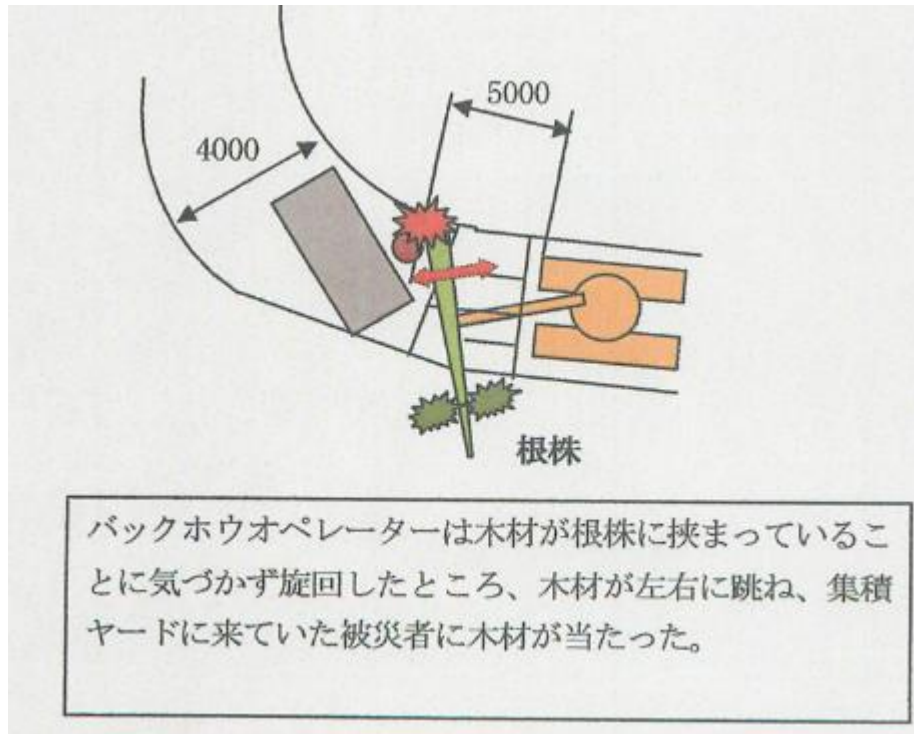
立木の集積作業中、グラップルで掴んだ木の一端が近くの根株に引っ掛かり、木が根株から外れて搬出用トラック付近を歩いていた作業員に当たり負傷した。

事故原因:

- ・バックホウの旋回範囲内に作業員が立ち入った
- ・伐採作業における事故予防策が十分ではなかった

改善対策:

- ・旋回範囲内に入らないよう安全教育の徹底
- ・複数の作業が重ならないよう工程を明確に区切る



分類: 伐採、集積

被害状況: 1か月の治療(肺座礁)

平成25年度に建設工事で発生した事故事例（建設機械の事故）

事故概要:

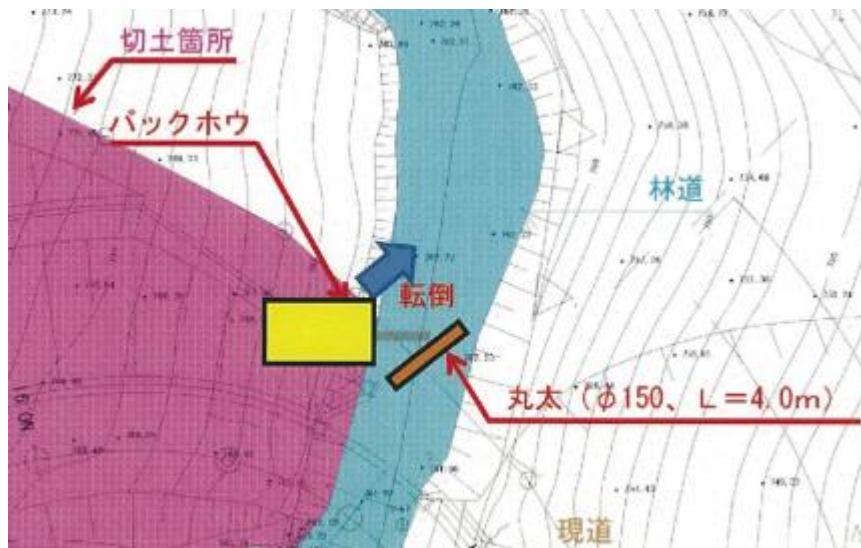
伐採作業中、丸太3本(φ150,L=4.0m)をクレーン機能付きバックホウでワイヤーを用いて吊り上げ、運搬しようとしたところ、バックホウがバランスを崩して横転した。

事故原因:

- ・傾斜地で荷を吊り上げ移動しようとした。
- ・クレーン機能に切り替えなかった。

改善対策:

- ・安全教育の徹底。
- ・バックホウに注意喚起の掲示。



分類: 伐採、集積

被害状況: バックホウの損傷

平成27年度に建設工事で発生した事故事例（立木処理）

事故概要:

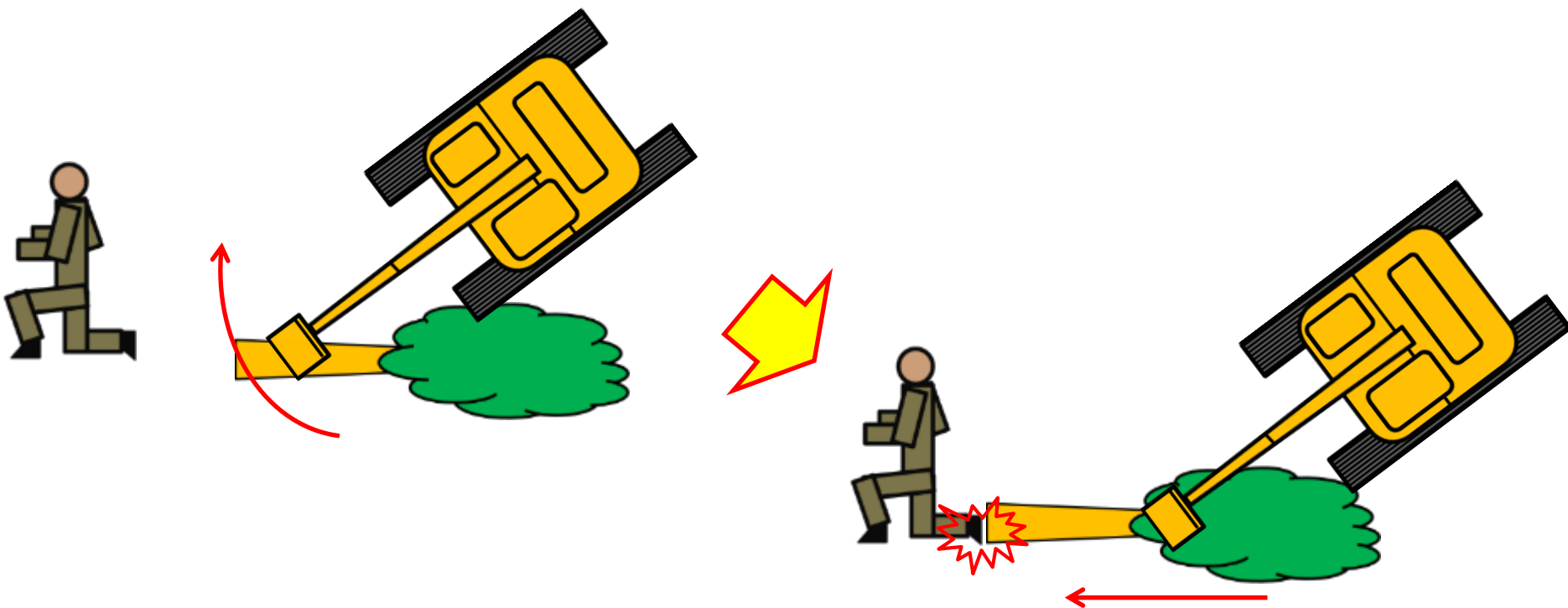
バックホウで伐倒木を移動しようとバケットで幹を動かした際、枝がしなり木が跳ねて落下し、幹が付近で測量作業（バックホウに背を向けていた状態）していた作業員の足に当たり負傷させた

事故原因:

- ・朝のミーティングで作業内容の周知不備
- ・監視人を置かず、近接作業を行った

改善対策:

- ・作業間の連絡・調整を綿密に行う
- ・近接作業を行う場合は監視人を置く



分類: 伐採、集積

被害状況: 30日間の入院(左足関節脱臼骨折)

平成28年度に建設工事で発生した事件事例（立木処理による事故）

【事故概要】

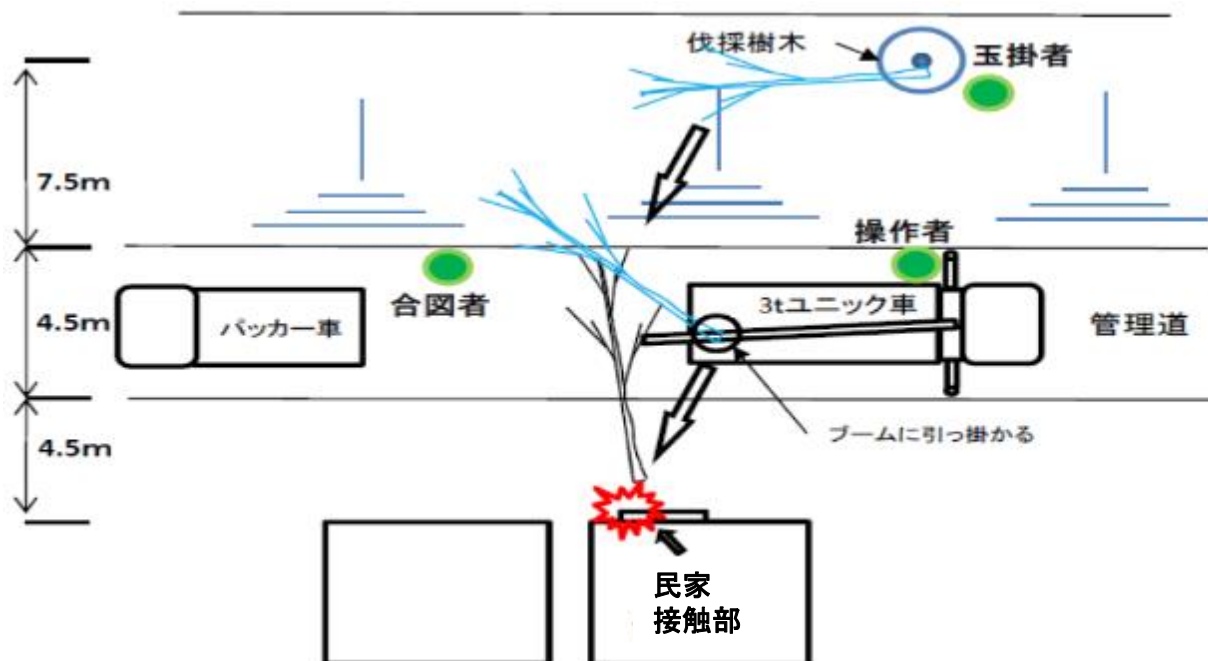
伐採した河川堤防法面の樹木（長さ約10m）を移動式クレーンで吊り上げていたところ、伐採木の幹がクレーンのブームに接触したため、これをかわそうと荷を下げ、左右にブームを操作した際、幹がブームから外れた反動で吊荷が大きく振れ、隣接する民家窓の底に接触、庇を損傷させた

【事故原因】

- ・地切りした段階でクレーンを止め、玉掛け状態を確認しなかった
- ・隣接家屋に接触する危険性について認識不足であった

【改善対策】

- ・吊荷は適切な長さに切断するとともに、地切り時に玉掛けの状態を確認する
- ・吊荷のブレを抑えるため誘導ロープ使用する
- ・危険予知活動の徹底



分類: 伐採、集積

被害状況: 隣接民家の窓の庇を損傷(1箇所)

平成30年度に建設工事で発生した事件事例（架空物損傷事故）

【事故概要】

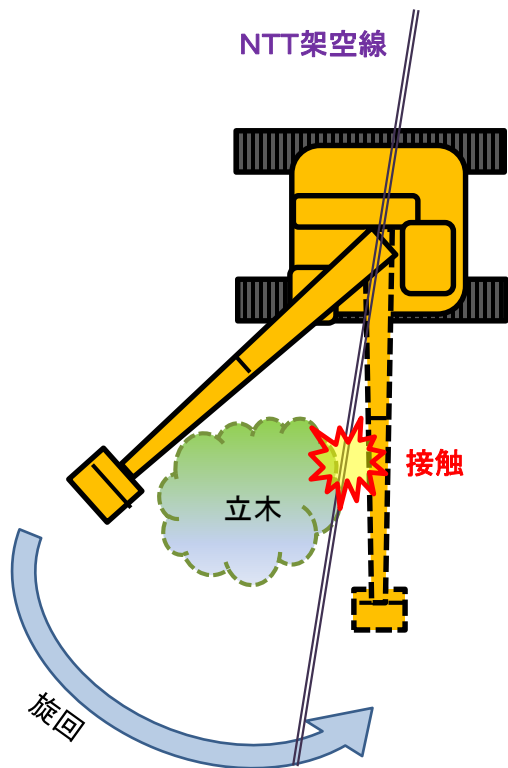
立木の伐採作業で、バックホウ(0.7m³級)を旋回させる際、アームを手前の木の上を通そうとし、上空にあったNTTの架空線に接触し、電話線が垂れ下がった。

【事故原因】

・架空線の存在は確認していたものの認識が浅く、架空線近接作業に必要な措置を講じていなかった

【改善対策】

- ・着工前の防護管設置を徹底する
- ・KY活動で架空線の位置確認を作業員全員に周知徹底する
- ・監視員を配置する
- ・注意喚起ののぼりを設置する



【分類】 伐採、集積

【被害状況】 NTT架空線損傷（通信障害なし）

令和元年度に建設工事で発生した事故事例（立木処理）

【事故概要】

県単治山事業工事において、支障木を搬出するため、バックホウの運転手と作業員1名で玉切りした材を不整地運搬車に積込む作業を行っていたところ、荷台上で不安定になっていた木材が荷台から滑り落ち、荷台に手を掛けていた作業員の左手に当たり負傷した。

【事故原因】

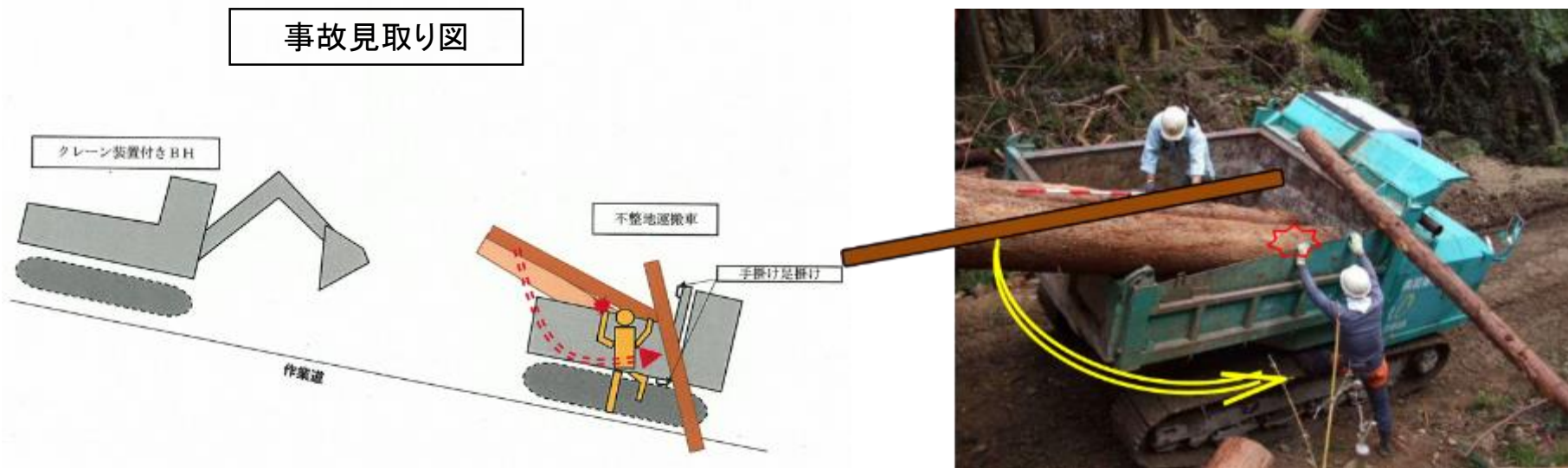
- ・玉掛けワイヤーを外す時、木材が安定した状態で置かれているのか確認が不十分。（木材の端が荷台に接地していなかった。材の末口が荷台奥側になっていた。）
- ・作業員は、特装車の荷台に上がる際に、荷台上の木材の安定状況の確認を怠った。また、同車両の昇降設備を使用せず、安易に荷台に手を掛けた。
- ・作業手順書が作成されていなかった。

【改善対策】

- ・木材の積卸し作業では、荷の安定状況を十分確認し作業を進めることとし、吊り上げ吊り下ろし時に、荷の安定の確認の合図を視差呼称で交わし作業することを徹底する。
- ・荷台への積み込みには、木材の元口を荷台奥側に積み込むこととし、荷台への昇り降りは必ず手足掛けの付いた位置で行うこととする。
- ・手順書を作成し現場作業員に作業手順に沿った作業を徹底させる。

事故発生状況

事故見取り図



【分類】 伐採 集積

【被害状況】 左小指切断（3週間の加療）